



## デートDVと学校

学校・教室でデートDVはどのようにして起きているだろうか？デートDVに悩み、傷ついている生徒(加害・被害)とその対応に苦しんでいる教師など、学校現場にいるすべての人のために解決の糸口を探る。

高橋 裕子 著 (エイデル研究所)



## 愛する、愛される

デートDVとは、親密な関係にある若者の間の暴力のこと。それは大事な人を傷つけ関係を破綻させる行為です。デートDVをなくす為にはどうしたらいいかを一部漫画も加えて分かり易く紹介。加害者向けのプログラムについても紹介。

## デートDV



著者は、民間シェルターの全国ネットワークの事務局で仕事をしてるため、さまざまなDV被害者に遭遇という。その経験から語られる実例や内閣府のデータをもとに分析された現状や、増加する「女性への暴力事件」の検証からデートDVの危険性を訴える。後半には、友達のDVのことで相談された時のアドバイスもあり、誰にも役に立つ情報がつまっている。また、性犯罪における各国も制度が紹介されている。



## 恋するまえに

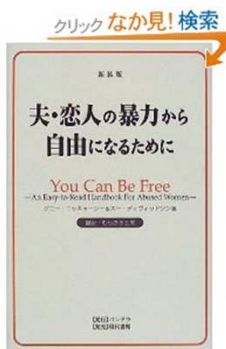
恋愛関係での虐待行動について知りたいと思っている10代の読者のために書かれた本。被害者の体験談やさまざまな点からデートDVについて説明されています。

パリー・レビィ 著 (梨の木舎)



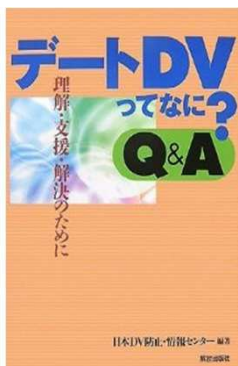
## それ恋愛じゃなくてDVです

「愛してるから束縛する」「家族や友だちより彼氏を優先するもの」は危険です。こんな関係から抜け出るのは容易ではありません。見えない暴力には人の心を叩き壊し、健全な人間を人形のように無気力にして逃げられないよう操作する恐るべきメカニズムが隠されています。幸せな恋愛関係がいいはずなのに、見えない暴力によるコントロール関係に気づかない女性たちに向けたカップル間DV警告書。



## 夫・恋人の暴力から自由になるため

夫や恋人から暴力を受けている女性たちへの具体的な援助を女性の立場から展開したものです。暴力の被害を受けた女性たちが自分の経験をみつめ直し、生活を取り戻していくことができるよう援助するために書かれています。巻末には日本の相談機関を紹介。



## デートDVってなに? Q&A

DVは、親密な二人の間で起こる人権侵害。配偶者以外で起るDVで 特に関心が高まっている若い世代のデートDVを特徴や背景、事例も含めた実態、防止や支援のあり方などをQ&Aでわかりやすくまとめた入門書。

日本DV防止・情報センター 編著 (解放出版社)



## 私をコントロールしないで!

「コントロール関係とは・・・。相手の自己不信を深めることで相手をコントロールする。または自分の自己不信で相手のコントロールを招く関係。」この本は人間を「献身型」「要求型」「閉じこもり型」「オーケー型」の4つのタイプに分け、それぞれがコントロールということとどういう関係にあるのかを専門的でありながら非常にわかり易く説明されています。



## がまんしないで、性的な不快

なにがセクハラでなにがそうでないのか。セクハラを解き明かし性のステレオタイプや性別による差別が根底にあることを明らかにする。学校でも職場でも道端でも起りうるセクハラ。しかし知識を身につけておけば大概のセクハラを避ける事は可能という。

男女を問わず若者によんでほしい1冊。

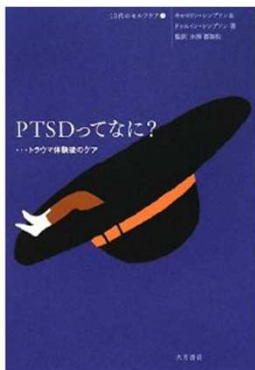


## 13歳からの恋とからだ

13歳くらいから女の子の体と心に顕著に起こる変化を産婦人科の女性医師がわかりやすく語りかける。

恋・性・自分・一人ぼっちの楽しみ方・避妊と中絶・女の子の周りにある危険等を取り上げる。

自分の心と体を守る本。



## PTSDってなに？

わかりやすく使える知識に定評がある10代セルケアシリーズ第7弾。災害・性的虐待・レイプ・テロ・事故・戦争体験などに分け、体験談をもとにPTSDの症状を紹介。記憶のメカニズムや複雑性PTSD、心の傷が本人と周囲に与える影響、PTSDへの具体的な対処と治療法について触れていく。



## 愛しすぎる女たち

愛することが苦痛をともなう時、私たちは愛しすぎているのである。対等な「愛」が「愛しすぎ」に変わる課程と状態、どのようにして「愛しすぎ中毒」に陥るのがみえてくる。あなたが自分自身と向かいあい「愛しすぎ」症状から抜け出す不断の挑戦し続けるための優れたセルフ・ヘルプ本

ロビン・ノーウッド 著 (中央公論新社)



## バタードウーマン

愛を託した男性に殴打され、罵言を浴びせられ、自尊心をはぎとられた被虐待女性(バタードウーマン)の生々しい囁き声と虐待に耐え、愛しつづける彼女たちの心理を明解にし、その支配から脱出した先の新しい明日を描く。

レノア・E・ウォーカー 著 (金剛出版)



## ドメスティック・バイオレンス

ドメスティック・バイオレンス(DV)とは何か、なぜ普段やさしい人が突然暴力を振るうのか、DVをはかるチェックリスト、子どもに及ぼす影響は深刻。暴力男を支える社会事情、加害者・被害者への援助、DV防止法・保護法解説などで構成されている。特に文中に数回出てくる「なぜ彼女は彼の(暴力を振るう)もとを去れないのか」の箇所はすべての女性に読んでほしい。自治体・警察・相談員必須本。



## おびえる男たち

信州・松本地方におけるドメスティック・バイオレンスの実態を徹底聞きとり調査。  
殴られる女たちの向こうに見えてきたものは・・・



## いなばのしろうさぎ

著者は結婚後、夫からDV(ドメスティック・バイオレンス)を長年受けた末に離婚。現在パートをしながら、2002年1月からはじめた「いなばのしろうさぎ」というDV関連ホームページを管理している。日本フェミニストカウンセリング学会会員

いなば あいこ 著 (新風社)



## DVにさらされる子どもたち



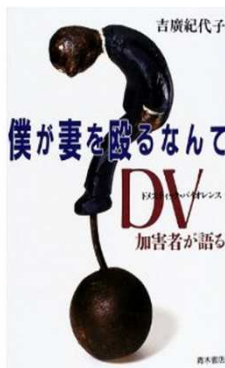
これまで個別の問題として扱われていたDVと児童虐待を包括的に捉え、DV加害者の親としての態度や行動に注目し、それがどのように子どもの日常生活を侵食し、家族機能全般に及ぼす波紋を及ぼすかを浮き彫りにする。DVや児童虐待に関わる相談機関のカウンセラーやソーシャルワーカーはもとより、児童福祉司法や警察、医療機関の関係者などにとって、今後の重要な方向性を示します。

## お父さん怒鳴らないで



ささいなことで大声を出し、家族を威圧するお父さん。「テェメー、バカヤロー」はやめてください。大切な家族を怒鳴りつけて、嬉しいのですか？怒鳴る夫怒鳴る父について寄せられた多くの投書は、言葉がいかにか人の心を傷つけるかを物語っていました。あなたの家族は泣いています。傷ついています。「毎日新聞」に寄せられた96人の投書をまとめる。

## 僕が妻を殴るなんて DV加害者が語る



ノンフィクションライターである著者がDV加害男性にインタビューした内容を骨子にDVの理解を深めようとした本。『DVのサイクル説があてはまらないことも多いのではないかと、男性は女性よりも身体的暴力を許容して、使いたがるのかもしれない。』との思いから加害者へのインタビューが始まったとあります。4つの事例と著者の見解が述べられています。

## なぜ男は暴力を選ぶのか



最初に、これも暴力なんですよ、と教えるチェックリストがあるのですが、暴力とは、受けた相手が【自分の自由を束縛されている、恐怖を感じている】となって始めて成立するものです。ですから、チェックリストにあるものが【暴力】なのではなく、関係を続けていくうちに【暴力になりうるもの】と捉えた方が良いでしょう。本書自体は分かり易い言葉で、DVが男女の関係の中でどう顕れているのか、それをどう考えれば良いのか語られています。

## DV殴らずにはいられない男たち



なぜ男たちはDVに走るのか。職業・年齢・生き立ちなど、加害者たちに共通点はあるのか。男たちに暴力をとめさせる手だては。加害者、被害者、双方の生の声を多く集め様々なケースからDV問題の本質を浮かびあがらせる。

## 男たちの脱暴力



著者はメンズサポートルームのスタッフ。サポートルームで加害者プログラムに参加している加害者男性たちの姿が書かれています。

仲村 正夫 著（毎日新聞社）